

注目すべき 坂の谷林道の コメツキムシ 数種の記録

相馬 明直

筆者は宍粟郡波賀町坂の谷林道において注目すべき種とおもわれるコメツキムシ数種を得ているので報告しておく。

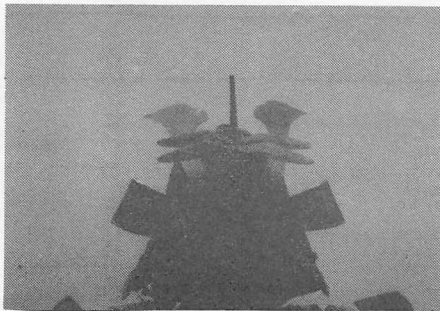
- ・クリイロツヤハダコメツキ *Limoniis burunnes* 1♂ 25-VIII-1993
本種は栃木県日光、岡山県、愛媛県にて採集されている稀種であり、夜間燈下に飛来してきた。
- ・ツマグロコメツキ *Ampedus nipnicus* 1 ex 20-IV-1983
本種は早春に得られる美麗種で、兵庫県下での採集例は少ない。倒木樹皮下より得たもの。
- ・クロホソキコメツキ *Procraerus cariniceps* 1♂ 18-V-1991
坂の谷林道を飛翔中、採集したもの。
- ・オオクロナガコメツキ *Elater nipponensis* 1♂1♀ 16-VII-1994
トチノキ生木のウロ内より採集した。近縁のヒメクロナガコメツキ *E.-georgelewisii* は同地では割合多く得られるが、本種は極めて少ない。

兜のトンボ2例

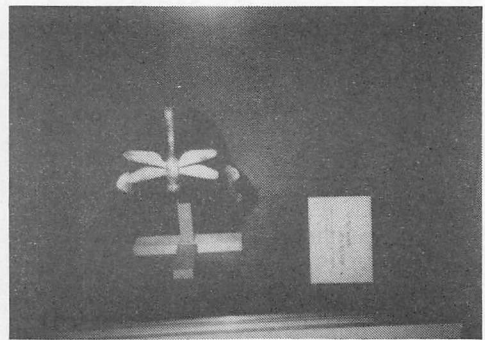
相坂 耕作

昨年(1994)、財歴史博物館信玄公室物館にて開館25周年として記念特別展「人と自然と虫たちと…」があり、多くのトンボの兜が図録に載っている。筆者はこの図録に載っていない兜の写真を入手しているので紹介しておきたい。

トンボは戦勝のシンボルとして兜の前立てに使われることが多い。これは日本国の古名「秋津島=蜻蛉島」と雄略天皇が狩りをされたおり、その腕を刺したアブをトンボか捕らえて飛び去った故事からトンボを「勝虫」とされたことに因む。どちらも前立てには金箔を使ってあるのか渋い輝きをもっている。



備中 足守藩主 木下家伝来のもの
兵庫県立歴史博物館蔵



六十二間小の御兜 室町時代末期
丸亀城蔵